

○ 質問番号1番 市長公室関係（市長答弁）
議席番号20番 三尻中学校 星野 浩慶 議員
「あついぞ！熊谷」事業について

星野浩慶議員さんの「『あついぞ！熊谷』事業について」にお答えします。

「あついぞ！熊谷」は、熊谷の夏の暑さが話題となることを活用して、熊谷のまちのよいところや名物、熊谷に住む人たちの熱く燃える心意気を全国に発信することを目的としています。

熊谷市では、平成17年度から、この「あついぞ！熊谷」という言葉のもとに、商店や会社、市民の皆さんたちの参加でいろいろな事業を行ってきました。こうした事業の様子は、テレビや新聞などにも大きく取り上げられ、熊谷のまちの元気な様子が全国に報道されました。

「あついぞ！熊谷」に関係するイベントや特産品づくり、また、皆さんも食べられたかもしれませんが、かき氷「雪くま」も好評で、「あついぞ！熊谷」に協力したお店や会場が多くの人たちでにぎわい、うれしく思います。

また、旅行先や各地の大会で熊谷を宣伝する「PRキャラバン隊」や「U-18少年熱中大使」の事業を通じて、多くの市民のみなさんが、自分たちの住む熊谷への関心を高め、誇りを持ってPRしてくれたことも大きな成果です。

これからも、都市の環境や市民の健康を守るための環境対策事業や健康対策事業にしっかり取り組むと同時に、「あついぞ！熊谷」の言葉とともに熊谷市の元気な姿を全国に知らせていきたいと考えています。

皆さんにも、ぜひ、こうした事業に参加したり、夏を楽しく元気に、そして涼しく快適に過ごすためのアイデアや活動を提案していただきたいと思います。

○ 質問番号2番 総合政策部関係（市長答弁）

森實円議員さん、今井香歩議員さん、原直樹議員さん、中井亨議員さん、坂上愛実議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

今年の夏は、熊谷市と岐阜県多治見市で74年ぶりに国内最高気温を更新するなど、本当に暑い日が続きました。皆さんも、部活動などを行うのに、大変だったと思います。

さて、熊谷市では現在、合併後の新市のまちづくりの基本方針を定める「総合振興計画」を策定中です。この計画では、市内を流れる二つの大きな川、荒川と利根川を生かしたまちづくりや夏の暑さの原因の一つとされているヒートアイランド対策にも力を入れ、「人が訪れる、魅力あるまち熊谷」にしていきたいと考えています。

また、身近な問題ではありますが、ゆうゆうバスを始めとする公共交通の充実や、中高校生が国際感覚を身に付けるのに有効な、外国との交流事業なども、それぞれ大変重要なことと考えています。

国では、人口が20万人以上の市を対象に「特例市」という制度を設け、地方分権を進めています。特例市に指定されると、都道府県が行うことになっている仕事のうち、まちづくりの分野、環境の分野、産業・経済の分野などの仕事の一部を任せられます。合併により、熊谷市も人口が20万人を超えましたので、地域の実情にあった行政サービスをより迅速に、そしてきめ細かに実施することが可能な「特例市」へ移行し、多くの市民の皆さんの期待に答えられるよう頑張ります。

議席番号2番 荒川中学校 森實 円 議員

魅力あるまちづくりについて（部長答弁）

森實円議員さんの「魅力あるまちづくりについて」にお答えいたします。

熊谷市では、夏の「暑さ」を逆にとらえ、人の心の「熱さ」と合わせて、市民みんなで楽しみながら積極的にまちづくりに活かそうと、「あついぞ！熊谷」を合言葉に、熊谷新時代まちづくり事業に取り組んできました。

また、熊谷市の若手職員の発案から、真夏の暑さとおいしい水で有名な熊谷の新名産として、創作かき氷「雪くま」が誕生しました。

これらの事業は、新聞、テレビ等にも、大きく取り上げられ、森實さんのお話のように、熊谷市の知名度アップにつながったと考えています。

これは、市民と市職員が一体となって努力した結果でもあります。こうしたパワーをもとに、今私たちは、熊谷市の今後10年間のまちづくりの方向性を示した「熊谷市総合振興計画」の策定に取り組んでいます。

この中では、熊谷市の特色となる、あるいは宝物といってもよいかも知れませんが、「伝統・文化・自然」というものを活かして、県北で最大都市の熊谷市の魅力をもっと高めていく方策を考えています。

そして、みなさんといっしょに、みなさんが誇れるすばらしいまちを創っていきたいと思っています。

議席番号 17 番 別府中学校 今井 香歩 議員

合併の効果・影響について（部長答弁）

今井香歩議員さんの「合併の効果・影響について」にお答えします。

この地域は、以前から通勤、通学、買い物などの生活圏が共通していました。また、少子高齢社会の進行や地方分権の進展などから、将来にわたり、住民福祉の向上が図れるよう合併し、埼玉県北部地域において、最初の人口 20 万都市「熊谷」となりました。

今井さんの住む別府では、今年 6 月に籠原駅から別府沼公園、能護寺、道の駅めぬまへと花めぐりシャトルバスが運行されましたが、合併により地域資源を共有した具体的な例といえます。

市民生活では、合併に際して、住民サービスが低下しないことや混乱しないことを第一に考えましたので大きな変化は感じなかったと思います。

しかし、都市経営という面から見ますと、大きな変化もあります。合併により、農業産出額で埼玉県第 2 位、製造品出荷額で 4 位、商品販売額で 3 位と高度にバランスの取れた都市となりました。さらに、特例市の指定により、都市の力を高めながら未来を考えることができるようになります。

これからは、地域の特色をいかしながら、活力があって、住みやすいまちを目指します。

荒川から利根川までと面積も大きくなりました、今井さんもぜひ新しい熊谷の地図を見ながら、未来を考えてみてください。

議席番号 18 番 別府中学校 原 直樹 議員

中高生ホームステイツアーの補助について（部長答弁）

原直樹議員さんの「中高生ホームステイツアーの補助について」にお答えします。

ニュージーランドの姉妹都市インバーカーギル市で、素晴らしい経験をされ、一段と成長なさったようですね。とてもうれしく思います。

さて、原さんが参加されたホームステイツアーは、「熊谷市国際交流協会」が主催したもので、この協会は設立してから 15 年以上経過し、インバーカーギル市とは強いつながりを持っています。

原さんは、今回のホームステイツアーで、熊谷市長の親書を持ってインバーカーギル市の市長さんに、親善大使として、表敬訪問をされたと思います。

また、インバーカーギル市の「熊谷友好協会」の会員の方のホームパーティーにも招待されたのではないのでしょうか。

このようなフレンドリーで、暖かい交流が「中高生ホームステイツアー」の特色となっています。

他のホームステイツアーではなかなか体験できないことだと思います。

現在、こうした「熊谷市国際交流協会」の活動を支えるために熊谷市では協会に補助金を出しています。

そして、この補助金の一部が今回のホームステイツアーでは、ファームでの宿泊体験や連絡通信費用などに充てられ、中高生の皆さんの参加費をでき

るだけ安く抑えているのです。

原さんの質問にあるように、参加する中高生の皆さんに直接補助はしていませんが、このような形で間接的に参加費を補助していることを理解してください。

原さんもお友達にお話をして、来年のホームステイツアーへの参加をぜひ呼びかけてほしいと思います。

熊谷市では、これからも「熊谷市国際交流協会」の活動を支援して、世界に目を向ける人を一人でも増やしていきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

議席番号26番 大里中学校 中井 亨 議員

ゆうゆうバス「ひまわり号」の増便について（部長答弁）

中井 亨議員さんの「ゆうゆうバス「ひまわり号」の増便について」にお答えします。

熊谷市ゆうゆうバスは、市内の交通が不便な地域の方や障害者及び高齢者の方々に御利用いただくことを目的に3路線、計5台で運行しています。

運行ルートは、道路運送法という法律により、利益を上げることが目的としている民間バス路線の近くを運行することはできません。

便数は、荒川の北側では、さくら号が1日4便、グライダー号、ムサシトミヨ号が1日各5便で毎日運行し、平成18年度は76,895人が利用しました。

路線バスが少ない大里地区では、熊谷駅を結ぶひまわり号は、2台で1日24便運行し、平成18年度は71,109人が利用しました。

もっと大勢の方に便利に使っていただきたいのですが、運賃100円で安く、気軽に利用してもらうため、1台あたりの平均で、年間800万円の赤字であり、税金を使ってバス会社に補助しているのが現状です。

また、合併してからもゆうゆうバスがない江南地区をはじめ、荒川の南側の路線を見直すことも必要になっています。

これからは、高齢者も増えてきますし、地球温暖化のためのCO₂削減のためにも、公共交通機関は益々重要になってきます。したがって、便利にするにはどうしたらよいか、市は補助金をいくらまで出せるかなど考えながら、ゆうゆうバスのよりよいあり方を研究していきたいと思っています。

議席番号30番 妻沼西中学校 坂上 愛実 議員

妻沼地域の交通手段の充実について（部長答弁）

坂上愛実議員さんの「妻沼地域の交通手段の充実について」にお答えします。

今、全国的に、バス路線が減少傾向にある中で妻沼地区には、多くのバス路線と便数があります。

しかし、妻沼地区に限らずバスのルートにあたる場所とそうでない場所ができ、また自宅からバス停までの距離も、それぞれに違ってきます。

先ほど中井さんにも、お答えしたとおり、ゆうゆうバスへの補助金は税金

でまかなわれますので、これにあてる予算は全体の中でバランスを取りながら市民の合意の得られるものにする必要があります。そのようなことから、市全域をネットワークするにはいたっておりません。

バス事業は利用者が多くなれば路線数も便数も多くなります。逆に利用者が少なくなると維持が困難になります。そこで駅に早く着くためのバス優先レーン、バス共通カード・パスモなどバスが利用しやすくなる工夫が進められております。これからは、地球環境を守る上でも、もっとバスなど公共交通機関が使われるような研究をしていかなければなりません。いろいろとむずかしい問題もありますが、今、熊谷市では、総合振興計画を作る中で市民アンケートを行いながら、ゆうゆうバスの全体的な見直しを実施する計画を考えています。

○ 質問番号3番 市民部関係（市長答弁）

三島圭将議員さん、廣山健太議員さん、小野澤瞳議員さん、篠木崇史議員さんの質問に私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

始めに、三島さん、篠木さんから質問のありました「大規模地震対策」と「災害時避難場所の受け入れ体制について」は、市民の皆さんの生命と財産を守ることは、市の基本的な使命であると思っています。地震や台風を無くすことはできませんが、市民の皆さんと一緒に、日ごろから災害に強いまちづくり、人づくりに様々な努力をし、災害に備えていくことで、被害を最小限に止めることができると思っています。

次に、廣山さんからありました「まちの美化活動」につきましては、熊谷市を住みよいきれいな「まち」にしていくため、市民の皆さんが自ら取り組まれている美化活動に感謝しているところです。市民皆さんの美化活動を積極的に支援していくとともに、市民一人ひとりがごみ拾いや花植えなどに積極的に参加する、きれいで住みよい熊谷市にしていきたいと考えています。

また、小野澤さんからありました「熊谷市の防犯対策」につきましては、安心して安全に暮らせる地域社会の実現は、市民全ての願いです。犯罪に対する不安を取り除くため、熊谷市では自治会を中心とした自主防犯パトロールの他、子供110番の家の設置や通学路の点検など市民と行政が一体となった様々な取組みがされていて、皆さんの安全を見守っています。これからも、地域ぐるみで皆さんの安全を見守る環境づくりを、市民、警察と一緒に進めて行きたいと考えています。

議席番号6番 大原中学校 三島 圭将 議員

大規模地震対策について（部長答弁）

三島圭将議員さんの「大規模地震対策について」にお答えします。

熊谷市では現在、合併に伴い新市の地域防災計画を作成中のところですが、大規模地震が起きた場合には、市長を本部長に災害対策本部を設置して、国や県等と連携し、被災者の救援や救護、行方不明者の捜索を始め、地震による火災の消火等にあたります。

また、市民の皆さんが1日も早く不便な生活をしなくて済むよう、被害を受けた各種施設の復旧や住宅を失った方への仮設住宅の建設等に全力を挙げて取り組むこととなります。救援や救護は、小学校に避難所を開設し、地域の防災組織等に協力していただき、被災者に飲料水や食料等を配ったり、臨時の救護所を設置して医師による負傷者への応急手当等を実施すること、自宅で介護を受けている人などに安否確認や支援を行うことなどです。地震の時にはまず、安全な場所に避難することを心がけてください。また、家族が集まる場所をあらかじめ話し合っておくことや非常持出品の準備をしておくことも大事なことです。さらに、避難所で食料等を配ったり、学校や家庭で散乱した器具や食器等の後片付けに、けがのないようお手伝いしていただくこともお願いしたいと思います。

議席番号14番 中条中学校 廣山 健太 議員

まちの美化活動について（部長答弁）

廣山健太議員さんの「まちの美化活動について」にお答えします。

熊谷市では、「住みよい綺麗なまちづくり」の取り組みの一つとして、熊谷市コミュニティづくり市民協議会という団体が中心となって、ごみゼロ運動を実施しています。

この運動は、春と秋の年2回、各地の自治会や会社、そのほかいろいろな団体に呼びかけ、小さな子供からお年寄りまで参加して、道路や公園など、身近なところに落ちているごみ拾いをします。

また、市民活動団体が実施する「スカベンジャー・クマガヤ」というイベントが、2ヶ月に1回開催されています。

「スカベンジャー」とは「ごみを拾う人」という意味で、参加者は、中・高・大学生などの若者が中心となり、ごみ拾いを通じて私たちの「まち」のことを考えていこう、という活動です。

この他、荒川の河川清掃など、市民の方々によるさまざまな美化活動が各地で行われています。こうした活動を通して、一人ひとりが「ごみを捨てない」という意識を高めることにより、まちも綺麗になり、また、環境を守ることに繋がっていきます。廣山さんも参加してみてください。

議席番号25番 大里中学校 小野澤 瞳 議員

熊谷市の防犯対策について（部長答弁）

小野澤瞳議員さんの「熊谷市の防犯対策について」にお答えします。

現在、熊谷市では、自治会や小学校区連絡会を中心に、自主防犯パトロール組織が約240団体設立され、児童・生徒の見守活動をはじめ、地域の防犯活動に積極的に取り組んでいただいています。

また、登下校の安全対策として、危険箇所の点検をとおり「安全マップ」を作成したり、暗く危険な場所には、防犯灯を設置したり、交通量が多く危険な場所には、車の運転手に注意を促す立て看板を設置したりするなど、通学路の安全確保に努めています。

さらに、皆さんの下校の時間に合わせ、不審者対策として、通称青パトと呼ばれる防犯パトロール車で巡回しています。

しかし、登下校に際し、防犯上大切なことは、一人ではなく、友達を誘い合うことです。児童・生徒が不審者に狙われ声をかけられたり、腕をつかまれたりするケースでは、約9割が道路上で、約8割が一人である時に被害に遭っています。

万が一、不審者等に遭遇した場合には、防犯ブザーを鳴らしたり、大声で叫ぶとともに、通学路周辺には、「子ども110番の家」も設置されていますので、人のいるところに逃げるなど、自らの安全は自ら守る意識を身につけることも大切なことと思います。

これからは、日も短くなります。不必要な夜間の外出は避けるなど、皆さんのできる防犯対策をお願いします。

今後とも、市といたしましては、地域ぐるみの防犯対策を、推進していきたいと考えています。

議席番号 31 番 小島中学校 篠木 崇史 議員

災害時避難場所の受け入れ体制について（部長答弁）

篠木崇史議員さんの「災害時避難場所の受け入れ体制について」にお答えします。

初めに、避難者の想定数についてですが、現在作成中の「熊谷市地域防災計画」では、埼玉県地震被害想定調査結果に基づき、深谷市から熊谷市の南部にあります深谷断層で地震が発生した場合として、最大 37,000 人の避難者を想定しています。

次に、現在の備蓄についてですが、飲料水は市内 16 箇所の浄水場、配水場に水道水を備蓄しています。非常用の地下水を汲み上げる設備もあります。

また、水道管の破損に伴う断水対策としては、広域的な給水車の応援体制が整えられています。

食料については、市役所、各行政センターなど市内 9 箇所の倉庫に約 43,700 食を備蓄しています。現在の備蓄食料では不足していますが、埼玉県で備蓄している食料や生活物資と併せて供給できるようになっています。備蓄品だけでは足りない場合等に備え、民間事業者から速やかな支援が受けられる協定を結ぶことも進めています。

また、医療品は、災害用医薬品を市内の 4 つの病院に備蓄しています。多数の負傷者が発生した場合には、県内外の医療機関に協力を求めること、また、重傷者については埼玉県のヘリコプターで対応可能な遠方の専門病院に搬送することになっています。避難場所の受け入れ体制については、これからも整備していきます。

○ 質問番号4番 福祉部関係（市長答弁）

堀内愛里議員さん、寺田桃子議員さんの質問に、私から、全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

堀内さんから、高齢者の健康と安全に関して、思いやりのある意見をいただきました。現在、熊谷市の人口は約20万人ですが、65歳以上の高齢者は、約4万人で5人に1人は高齢者という状況です。私も、高齢者の皆さんが、いつまでも健康で、安心して毎日を幸せに暮らしていけるよう配慮することが大切であると思っています。堀内さんを始め皆さんにも協力いただき、ハートフルなまちにしていきたいと思っています。

次に、寺田さんからの「子どもたちの健全育成」について、お答えします。

熊谷市には、子どもたちが心のつながりをもち、一人一人の自立をめざすことを定めた「子ども憲章」があります。この中で謳っているように、私も、熊谷市の子どもたちには、夢を持ってほしい、そして、その夢を大事に育てながら、社会の一員として自覚を持った、規律ある大人になってほしいと願っています。

そして、子どもたちの健やかな成長は、地域全体で取り組むものと考え、熊谷市では、地域の力を支援するとともに、さまざまな角度から健全育成に取り組んでいます。これからも、子どもたちが、熊谷に生まれてよかったと思えるまちづくりを行っていきますので、寺田さんも、大きな夢を持ち、その実現を目指し、社会の中で、自立した大人となるようがんばってください。

議席番号1番 荒川中学校 堀内 愛里 議員

高齢者対策について（部長答弁）

堀内愛理議員さんの「高齢者対策について」にお答えします。

高齢社会が進む中、高齢者の健康や介護は、重要な生活問題となっています。

多くの高齢者は、元気で毎日を生活していますが、中には介護を必要とする方もいます。自宅での介護が難しい場合、施設に入所することとなります。

熊谷市内の主な入所施設ですが、介護を常に必要とする方が入所する特別養護老人ホームは9施設で定員は580人、看護やケアの必要な方が入所する老人保健施設は4施設で定員400人、長期の療養を必要とする方の療養医療施設は1施設で定員16人となっています。

また、生活に不安のある方が入所する施設として養護老人ホームやケアハウスなど利用目的に応じた施設があり、約1,000人入所できます。

一方、元気な高齢者が健康増進やレクリエーションの場として利用している別府荘、上之荘などの老人福祉センター4施設と老人憩の家が4施設あります。

次に、高齢者の健康や安全に関する対策についてお答えします。

高齢者の皆さんが、健康づくりや仲間との交流を図り、生きがいをもって毎日を暮らしていただくため、世代間交流グラウンドゴルフ大会をはじめ、芸能大会や趣味の作品展等を開催しています。

また、今年の夏は特に暑く、地域の民生委員さんにご協力をいただくなど、高齢者の見守りを行い、健康に注意していただいたところです。

なお、交通事故や振込め詐欺にあわないよう防災行政無線などでお知らせもしています。これからも、高齢者の健康と安全について、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

議席番号4番 富士見中学校 寺田 桃子 議員

子どもたちの健全育成について（部長答弁）

寺田桃子議員さんの「子どもたちの健全育成について」にお答えします。

熊谷市の未来を担う子どもたちには、社会のルールや命の尊さ、人を思いやる心を大切に、心身ともに健全で健やかな成長をしてほしいと市民の誰もが願っています。

このため、熊谷市では、寺田さんたちが学校で活動している部活動への奨励金の交付を始め、学校図書館の充実、企業等への体験学習や、ほほえみ相談員による心の悩み相談などを行っています。

また、街頭補導活動などを行い、非行防止に努めています。なお、子ども会を卒業した中学生が、ジュニアリーダーとして、地域の活動に取り組み、大人たちと交流していることをうれしく思っています。

寺田さんには、これからも多くの人と触れ合い、友達をつくり、楽しく学校生活を送っていただきたいと思います。

○ 質問番号5番 環境部関係（市長答弁）

瀬谷萌議員さん、河内愛美議員さん、松葉駿介議員さん、小島佑太議員さん、関根彰子議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

熊谷市では今年8月に、日本最高気温40.9度を記録し、夏の暑さにおいては、熊谷の名を全国にアピールすることとなりました。しかしながら、人々の暮らしの中では、熱中症による健康被害が発生し、また、暑さを凌ぐため、エアコン等の稼働により電力使用が大幅に増加したことなどで、多くのエネルギーが消費されました。

私たちは、快適で便利な生活環境を追求するあまり、地域の自然環境から地球規模にいたるまで、多様な環境問題に直面することとなりました。このような環境問題の解決にあたっては、私たち、一人ひとりが環境に配慮した行動、たとえば、自動車や、電気・水道の使用をできるだけ控えたり、家庭からのごみの排出を抑制したり、排水を汚さない工夫をするなど日頃から環境を意識したライフスタイルに改める必要があります。こうしたことにより、緑豊かな自然や、ムサシトミヨやホテルに代表されるきれいな水辺環境を保全することが可能となり、更には、限りあるエネルギー資源を大事に活用することで、温暖化を食い止め、将来の子供たちの世代まで良好な地球環境が守られるものと考えています。

熊谷市は、これまで環境保全のため色々な施策に取り組んで来ましたが、2度の合併や日本最高気温を記録したことなどを機にさらに環境保全施策を進めていきたいと考えています。

議席番号8番 熊谷東中学校 瀬谷 萌 議員

川の浄化について（部長答弁）

瀬谷萌議員さんの「川の浄化について」にお答えします。

市内の主要な河川や用水路の水質測定の結果を見ると、下流にいくほど、水質が悪化しているのがわかります。

河川などを汚す原因の約7割は、一般家庭からの生活排水であると言われており、瀬谷さんの通う熊谷東中学校は、下流域に位置しますので、河川等が汚れていると感じられたのだと考えます。

熊谷市では、下水道の整備をしたり、し尿の処理に併せ、台所や洗濯の排水を処理できる合併処理浄化槽を設置する家庭に、補助を行うなど、河川等の水質悪化を防止する施設の整備や普及を図っていますが、なかなか思うように進んでいないのが現状です。

こうしたことから、市民の皆さんに対して、調理くずや食べ残しを流さないなど、家庭での排水の仕方のちょっとした工夫が、水質の悪化防止に効果的であることを、市報やホームページで呼びかけています。

瀬谷さんご質問の、川を浄化する施設につきましては、県は、今年から2年間、ムサシトミヨがすんでいる元荒川において、周辺の皆さんの協力をいただきながら、川を浄化するための実験施設を設置することとしています。

これを設置することにより、川の浄化に効果的かどうか、その結果に注目していきたいと考えています

議席番号15番 吉岡中学校 河内 愛美 議員

ノーカーデーの実施について（部長答弁）

河内愛美議員さんの「ノーカーデーの実施について」にお答えします。

地球温暖化対策については、国は、京都議定書に基づき、二酸化炭素等の温室効果ガスの削減目標を設定し、様々な施策を推進しています。

しかしながら、現在では、削減量の目標には程遠く、達成することが危ぶまれています。

そうした中、河内さんから提案されました「自動車利用を控える」ことは、温暖化防止に大変有効な施策であると考えています。

このため、熊谷市では手始めとして昨年の12月から市役所の職員を対象に毎月第一水曜日をノーカーデーとし、多くの職員の参加を呼びかけ、効果を上げています。自動車利用の抑制を始めとする温暖化対策は、市民の方々、事業所・行政などが一体となって取り組むことにより効果が発揮できるものと考えますので、今後は、熊谷市民全体に対し提案していきたいと考えています。

議席番号16番 吉岡中学校 松葉 駿介 議員

節電運動の推進について（部長答弁）

松葉駿介議員さんの「節電運動の推進について」にお答えします。

今年の熊谷の暑さは、全国的にも有名になりましたが、これは、松葉さんのおっしゃるとおりヒートアイランド現象やフェーン現象により、暑い空気が熊谷に集まってしまうことに加え、温室効果ガスによる地球温暖化も気温上昇のベースにあるものと考えています。

松葉さんから提案されました温暖化対策の一つとして、節電を図ることは、大変有効なものです。例えば、国が発表した2005年度の二酸化炭素排出量のうち、一般家庭からの排出量を見ますと、電力の消費によるものが38.7%、ガソリンの消費によるものが27.0%となっており、節電や自動車利用を控える事により二酸化炭素等の発生を大きく削減する事ができます。

このため、私たち一人ひとりがエネルギーをできるだけ使わない生活に変えていく必要があります。熊谷市は、国が参加を呼びかけている温暖化対策、チームマイナス6%に登録し、市役所内での節電に取り組んでいますが、今後は、家庭や学校、事業所などに先程申し上げました車の使用を控えることや節電運動などの啓発をしていきたいと考えています。

議席番号23番 大幡中学校 小島 佑太 議員

地球温暖化防止対策について（部長答弁）

小島佑(ゆう)太(た)議員さんの「地球温暖化防止対策について」にお答えします。

熊谷市が、これまで取り組んできた温暖化防止対策ですが、平成12年に環境基本計画を、平成13年に「温暖化対策実行計画」をそれぞれ策定し、さまざまな事業を行ってきました。

市役所の事務・事業では、電気やガス、自動車燃料等の削減、天然ガス自動車の導入、クールビズやウォームビズ、ノーカーデーの実施などです。

そして、今年度には、「あついぞ！熊谷温暖化対策プロジェクト」と銘うって、5つの事業に取り組んでいます。

この事業では、自然エネルギーを利用した太陽光発電システムを2箇所の学校屋内運動場へ設置するほか、太陽光発電について知ってもらうため、全ての小学校に太陽光発電照明灯を設置する予定です。

更に、家庭で太陽光発電システムを設置する方には、導入費用の一部について補助を実施しています。また、市役所が使う車6台を天然ガス自動車とするほか、市内の小学6年生全員が、家族といっしょになって省エネ対策を実践する「キッズISO」などに取り組んでいます。

今後は、これらの事業を展開する中で、温暖化対策に加えヒートアイランドにも有効な緑化対策など、考えられる各種施策を実行していきたいと考えています。

議席番号34番 江南中学校 関根 彰子 議員

環境保全の取り組みについて（部長答弁）

関根彰子議員さんの「環境保全の取り組みについて」にお答えします。

熊谷市は、本年2月に江南町と合併しましたが、この合併により山林面積は、526ヘクタールと、合併前に比べ、約4倍に増加し、自然環境は多様性に富み、豊かなものとなりました。この里山と呼ばれる雑木林は、地球温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や、ヒートアイランドの緩和に加え、水資源の涵養、大気の浄化、野生生物の生息場所等、多くの機能を有しており、将来に向けて長く保全していかなければならないものと考えています。

熊谷市では、これまで、県と協力しながら、ふるさとを象徴する樹林地12箇所を「ふるさとの森」とし、その保全を図ってきました。

また、埼玉県自然学習センターなどの環境施設の見学会を実施するほか、熊谷市の自然や地球環境問題などをテーマとした、環境教育講座を開催しています。

さらに、市民の方々が自然観察等を行いながら、環境を保全することの大切さを学んでいただくため、自然観察会や水辺観察会を開催してきました。

今後の里山の保全につきましては、現在策定中である「環境基本計画」や、今後策定を予定している「緑の基本計画」において、具体的に検討していきたいと考えています。

質問番号6番 都市整備部関係（市長答弁）

黒澤翼議員さん、杉山侑也議員さん、滝澤大地議員さんの、緑化の推進や、安らぎのある公園についての質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

今年は、8月16日に40.9度の日本最高気温を記録し、まさに「あついで！熊谷」として、新聞、テレビ等で報道されました。全国の注目を浴びた熊谷市を、暑いけれども活気にあふれ、健康で快適に過ごせるまちにしていくことが、私の使命だと思っています。

そして、「緑」は、快適なまちづくりの大切なテーマです。今回、快適なまちづくりについて、市の職員から400件ものアイデアが集まりましたので、効果と実現性について、現在検討しているところです。

今回黒澤さんからご提案をいただきました「植樹のイベント」や、杉山さんからの「街中を涼しくするための公園や噴水の設置」そして、滝澤さんご提案の「緑の空間の創設」につきましては、いずれも魅力ある提案ですので、それぞれの可能性について考えてみたいと思います。快適なまちづくりは、市民皆さんとの協働により行うことが、効果的と考えますので、ぜひ皆さんも協力してくださるよう、お願いしたいと思います。

議席番号7番 熊谷東中学校 黒澤 翼 議員 植樹イベントについて（部長答弁）

黒澤翼議員さんの「植樹イベントについて」にお答えします。

質問にもありますように、昨年7月に、「ふるさとの森づくり実行委員会」によりまして、熊谷スポーツ文化公園に、「ふるさとの森づくり1万本の植樹イベント」が行われ、今年は「育樹祭」として、その手入れが、多くの皆さんの参加のもとに実施されました。

このように、緑をつくり育てることの大切さを、私たち一人ひとりが理解し、活動することは、大変意義あることと思います。

今年の9月定例会市議会でも、黒澤さんとほぼ同様の意見が、市議会議員から述べられましたが、市民皆さんとの協働による、植樹のイベントにつきましては、その活動を長く続けるための組織づくりや、場所の選定等の課題はあるものの、確実に緑をふやすことができ、地球温暖化やヒートアイランド現象に対しても、有効な手段であると考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

議席番号11番 大麻生中学校 杉山 侑也 議員 木陰のある公園や噴水の設置について（部長答弁）

杉山侑也議員さんの「木陰のある公園や噴水の設置について」にお答えします。

現在、市内には都市公園などの、比較的広い敷地の公園が112箇所あります。これらの公園は、樹木が茂り、憩いの場として皆さんにご利用いただいています。

なお、「見るだけで涼しくなる噴水のある公園」につきましては、現在、中央公園と荒川公園に噴水がありますほかに、水辺のある親水公園としましては、熊谷運動公園、別府沼公園、県営スポーツ文化公園などが、皆さんに利用され親しまれています。

そのほか、大里地域のさくらリバーサイドパークでは、水とふれあいながらバーベキューが楽しめ、荒川緑地では、川遊びができ、また、利根川総合運動公園では、ウインドサーフィンや、ジェットスキーなどのマリンスポーツも間近に見られます。また、現在、整備中の江南総合公園においては、木陰を活かした公園整備を行っているところです。

つぎに「駅周辺に涼しく落ち着けるスペースを」とのご提案ですが、中心市街地の限られたスペースですので、ビルの屋上や壁面等を活用した緑化や、街なかでの涼しさを体感できる「打ち水活動」など、市民皆さんと一緒に、涼しさを感じられる事業を、検討していきたいと思えます。

議席番号22番 奈良中学校 滝澤 大地 議員

涼をとれる緑の空間づくりについて（部長答弁）

滝澤大地議員さんの「涼のとれる緑の空間づくりについて」にお答えします。

熊谷市では、社団法人埼玉県緑化推進委員会を通じて、市民皆さんの協力を得て、緑の募金活動を行っています。

この事業は、樹木の植栽、森林整備、苗木の配布などを目的とし、募金の一部を公園などの緑の整備事業として、毎年植栽事業を実施しています。

また、春と秋の「緑の集会」や、人生記念樹事業については、家庭緑化の啓発として、苗木をお配りし、緑化推進に取り組んでいます。

また、「朝顔のつるで緑のカーテンづくりを」とのご提案については、昨年度より壁面緑化モデル事業として、5つの公共施設にナツツタ、ビッグノイア、クレマチス、アサガオなどを植えています。今年は、勤労青少年ホームに、アサガオのカーテンを行い、とても爽やかさが感じられたとのことでした。このことにより、壁面緑化などの緑のカーテンづくりを、市民皆さんと一緒に広く実施したいと考えています。

○ 質問番号7番 建設部関係（市長答弁）

栗原美咲議員さん、戸島旬菜議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

熊谷市は、北に利根川、南に荒川が流れ、緑豊かな自然に恵まれた都市です。古くは中山道の宿場町として栄え、現在は国道17号や140号などの国道と多くの県道、幹線の市道がネットワークをつくり、北関東の道路網の要となっています。

また、皆さんにとって最も身近な生活道路は、毎日の暮らしに欠くことのできない重要な社会基盤であり、市内に網目のように張り巡らされています。

熊谷市では毎年、この道路の幅を拡げたり、改良する工事を行っています。栗原さんの質問にあるとおり、安全な通行に心配のある道路は、まだたくさんありますので、これからも一層、安全な道路の整備と交通安全の普及に努めていきたいと考えています。

次に戸島さんの質問にお答えします。自転車は環境にとっても、利用者の健康にとっても、非常に適した乗り物であり、「あついぞ！熊谷」の環境問題へのひとつの取り組みとして有効な手段であると考えています。

私は熊谷市の職員にも、自転車通勤を呼びかけているところです。利根川や荒川の土手は、安全で気軽に利用できるサイクリングロードとして、インターネットや雑誌にも紹介されていることもあり、休日ともなると、気持ち良さそうに走っている自転車利用者を数多く見かけます。

熊谷市は、ほぼ平坦な地形ですので自転車を利用して移動するのに適していると思います。いま作成をしています熊谷市総合振興計画の中でも、荒川や利根川、公園と公園を結ぶ自転車道を考えています。これからも、自転車をどんどん利用したくなるような道路の整備を進めていきたいと思っています。

議席番号19番 三尻中学校 栗原 美咲 議員

三尻中学校周辺道路の整備について（部長答弁）

はじめに、栗原美咲議員さんの「三尻中学校周辺道路の整備について」にお答えします。

熊谷市で管理している道路の総延長は約2千3百キロメートルあります。

道路整備をする方法は、土地区画整理事業のように、土地の区画を整えながら、区域内の皆さんから少しずつ土地を出していただいて道路を広げの方法と、土地の所有者の方に、道路にする用地を譲っていただきながら道路を広げの方法などがあります。いずれの方法も、土地所有者の方に御協力をしていただかなければ道路を広げることができません。

また予算の中で事業を行っていかねばなりませんので、一度にすべての道路整備を実施することは難しいことです。栗原さんの質問の、三尻中学校周辺の安全な通行に課題のある道路は、現場を良く点検して、緊急性を第一に考えながら、計画的に進めていきます。

議席番号 24 番 大幡中学校 戸島 旬菜 議員

自転車が走りやすい道路の整備について（部長答弁）

次に、戸島旬菜議員さんの「自転車が走りやすい道路の整備について」にお答えします。

戸島さんもおっしゃっているとおり、地球温暖化は、世界規模で問題となっています。自動車に替えて自転車の利用を促進し、化石燃料の使用量を抑えることは、温暖化防止にとっても有効な手段であるとともに、健康の増進にもつながると考えています。

しかし、歩行者と自動車の安全を第一に考えてきた道路を、実際に自転車で走ってみますと、戸島さんの質問のとおり、安全な通行に課題を残す道路が、熊谷市内にもたくさんあります。

現在熊谷市で進めている幹線道路では、歩道を広く設け、自転車は車道でなく、今まで歩道と言われていたところを自転車歩行者道として通行させる計画で整備をしています。これらの新しい道路が国道、県道、幹線市道とネットワークすることにより、自転車利用者にとって安全で快適な通行が可能になると考えています。道路の整備には時間とお金がかかりますので、少しずつではありますが、自転車が走りやすいように改善をしていきます。

○ 質問番号 8 番 教育委員会保健体育課関係（市長答弁）

掛川沙葵議員さん、小林美咲議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは教育長からお答えします。

熊谷市では、「生きる力をはぐくむ教育」を目指し、知・徳・体のバランスのとれた教育を進めています。心身ともに健康で、元気よく学校へ登校し、勉強に運動に一生懸命取り組んでほしいと願っています。

さて、給食は学校生活の中でも皆さんにとって楽しみな時間だと思います。熊谷市としても、皆さんに安全でおいしい学校給食を提供できるよう、献立を工夫したり、地元の新鮮な食材を使ったりしています。将来、どのような給食施設にするかについては、とても大切な問題で、現在、様々な角度から検討しているところです。皆さんによりよい学校給食を提供するにはどうしたらよいか、考えていきたいと思っています。

次に、熊谷市は昨年7月、スポーツ熱中都市を宣言しました。その合い言葉は、「実践」「応援」「協力」です。中学生の皆さんは、心身ともに著しく成長する時期ですので、スポーツに積極的に取り組んでほしいと思っています。部活動では、顧問の先生や外部指導者からの指導により技や体力を向上させるとともに、指導者や友達との交流・ふれあいを通して思いやりの心を持った元気で生き生きとした生徒に成長してほしいと思っています。

議席番号 21 番 奈良中学校 掛川 沙葵 議員

自校給食について（教育長答弁）

掛川沙葵議員さんの「自校給食について」にお答えします。

現在、熊谷市の学校給食は、熊谷地区と江南地区がセンター方式で、大里地区と妻沼地区は自校方式で運営されています。

各学校に新たに調理施設を設置して特色のあるおいしい給食を作ってほしいという質問ですが、センター方式の小・中学校34校に調理場を設置するには、将来を考えた調理施設のあり方を検討する必要があります。

また、施設建設のために多額の費用も必要となります。現在の熊谷給食センターは、建設以来26年を経過していますが、献立の工夫や地元の新鮮な食材を取り入れることなどによって、安全で特色のあるおいしい給食を提供できるように努めています。

したがって、現在の熊谷給食センターを最大限に活用しながら、将来の給食施設はどうあるべきかを、時間をかけ、自校給食も含めて様々な角度から、検討していくことが大事であると考えています。

議席番号 28 番 妻沼東中学校 小林 美咲 議員

部活動の外部コーチの増員について（教育長答弁）

次に、小林美咲議員さんの部活動の外部コーチの増員について」にお答えします。

熊谷市には、熊谷市部活動地域連携事業という制度があります。この事業は、部活動を充実させ、活性化を図るため、各中学校からの申請に応じて熊

谷市スポーツ・レクリエーション指導者バンクに登録されている人の中から、適切な人を外部指導者として、学校に派遣します。各学校の実状に応じてなるべく多くの部に派遣できるように、考えていますが、生徒数や部活動の大きさにもよりますので教育委員会と学校で相談をして派遣しています。

小林さんが部活動に一生懸命取り組んでいることを大変うれしく思います。これからも、部活動に対する積極的な姿勢を活かし、有意義な学校生活を送ってください。

○ 質問番号 9 番 教育委員会社会教育課関係（市長答弁）

高田啓人議員さん、長島美香議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

熊谷市には、県立の熊谷図書館のほか、熊谷図書館・大里図書館・妻沼図書館・江南図書館の市立図書館4館があります。

また、市内全30小学校には、移動図書館として、3週間に1回ですが、さくら号が巡回をしています。

さらに、市内の小・中学校には、学校図書館と各教室に学級文庫があります。これからも、学校と市立図書館が連携し、皆さんの多様な興味や関心に十分応えられるよう、その整備・充実に努めていきたいと考えています。

次に、舞台芸術鑑賞の機会については、市の施設である熊谷文化創造館「さくらめいと」を芸術文化の情報発信の拠点として、オーケストラや演劇、能、狂言などの公演を行っています。

また、県の施設である熊谷会館でも多くの公演が企画されており、熊谷市民の方は、芸術文化に慣れ親しむ機会が、身近に整っているものと考えています。

芸術文化は、心に潤いや豊かさをもたらし、社会を元気にする働きがあります。今後も一流の舞台芸術から、地域で活躍されている方々による芸術文化活動に至るまで、幅広く芸術文化に触れる機会を提供していきたいと考えています。

議席番号 9 番 玉井中学校 高田 啓人 議員

図書館の新設について（教育長答弁）

高田啓人議員さんの「図書館の新設について」にお答えします。

市立図書館では、皆さんにとって、多くの本と出会える場として、豊富な資料を用意し、皆さんの本選びや読書相談などのお手伝いをしています。

図書館から離れた地区の皆さんが新たな施設を望んでいることは承知をしていますが、合併により、熊谷市には、熊谷図書館・大里図書館・妻沼図書館・江南図書館の4館もの市立図書館があることや多くの費用がかかることから、図書館新設には、大変難しい状況にあります。

そこで今、皆さんの読書の意欲に応え、身近な場所で良い本に多く出会っていただくため、学校図書館の図書資料の充実や環境の整備に努めています。言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしてくれる読書は、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

これから、皆さんがあらゆる機会に、自主的な読書活動を行うことができるよう、学校と市立図書館が連携協力して、読書に親しめる機会の充実や環境づくりを進めていきます。

議席番号32番 小島中学校 長島 美香 議員

舞台芸術鑑賞会の実施について（教育長答弁）

長島美香議員さんの「舞台芸術鑑賞会の実施について」にお答えします。

子どもたちが一流の芸術作品に接することは、豊かな感性を育む上で、とても大切なことだと考えています。

そこで、熊谷市では、熊谷市文化振興財団を設立し、オーケストラによるコンサートやミュージカルの鑑賞をはじめ、専門家の指導を受けながらの演劇や能・狂言など、演技を実際に体験できるイベントを自主運営しています。

このような公演を運営するには、出演料や舞台の装飾費等多くの費用がかかります。市が費用面で支援をすることにより子どもたちが少しでも安い料金で鑑賞・体験ができるようにしていますが、芸術を鑑賞・体験をされる方にも応分の負担をしていただくのはやむを得ないことと考えています。

これに対し、熊谷市で実施している無料で鑑賞できるイベントとしては、毎年9月から12月にかけて、吹奏楽や演劇、バレエなど市民の団体が日頃の練習成果を発表する「熊谷市文化祭」があります。

さらに、平成14年度より、文化庁が実施をする、演劇やミュージカル、歌舞伎、能などの団体を学校に派遣する「本物の舞台芸術体験事業」があります。熊谷市においても、平成18年度は男沼小学校と妻沼西中学校の2校で実施をし、本年度は中条中学校で実施をする予定となっています。

今後も、本物の舞台芸術だけでなく、地域で活躍されている方々による芸術文化活動や伝統芸能まで、幅広く芸術文化に触れる機会を提供することにより、子どもたちが豊かな感性や創造性を育んでいくことができるようにしていきたいと考えています。

○ 質問番号10番 教育委員会教育総務課関係（市長答弁）

浅沼真人議員さん、江森鳴海議員さん、蝦名俊祐議員さん、岩上大真議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

学校施設については、安全で快適な学校をめざし、施設の充実と適正な管理・活用が図れるよう努めています。

最近実施した学校の安全を図るための工事・事業としては、耐震補強やアスベスト除去などがあります。

また、快適な学校とするための工事・事業としては、全小・中学校のすべての普通教室へ扇風機を設置するとともに、学校図書館には空調設備（エアコン）を設置しました。熊谷市では、合併後、小学校30校、中学校17校、合計47校となり、校舎・体育館など建築してから年数がたったものや、耐震診断を行なった結果、耐震補強工事を行なわなければならないもの等もあり、その維持管理費用が大幅に増えています。

そのため、こらからも限られた予算で、事業を選択しながら、しかも、将来の財政状況も考えてその緊急性、必要性なども考慮し、計画的に施設の建設、改修等に取り組んでいきます。

また、教育支援についても、9月市議会定例会に提案して、育英資金の貸付金額の引上げをお認めいただきましたが、引き続き、その充実に努めます。

これからも、いろいろな面で、皆さんの学習環境の整備・充実に努めていきたいと考えています。

議席番号3番 富士見中学校 浅沼 真人 議員

学校での暑さ対策について（教育長）

浅沼真人議員さんの「学校での暑さ対策について」にお答えします。

熊谷市では、浅沼さんの言うとおりに、暑さ対策として平成17・18年度に全小・中学校の普通教室に扇風機を設置しました。

また、本年度は、全小・中学校の図書館に空調設備（エアコン）を設置しましたので、皆さんは、夏休み期間中に、読書や調べ物学習などを、学校図書館で、快適に進めることができたものと思います。

8月に40.9度を記録した直後に、市役所では「暑いアンド快晴プロジェクト」を立上げ、職員から暑さ対策などについて約400件のアイデアが提案されています。

これからも、これらのアイデアを活かした取組なども研究しながら、さらに、9月市議会定例会での決議を踏まえて宣言をいたしました。ヒートアイランド対策推進都市にふさわしい学校になるよう、知恵を出して取り組んでいきたいと思っています。

議席番号13番 中条中学校 江森 鳴海 議員

校舎の雨漏りの補修について（教育長答弁）

次に、江森鳴海議員さんの「校舎の雨漏りの補修について」にお答えします。

熊谷市内の小・中学校の施設のうち建築した年の古い施設につきましては、長年の経過による老朽化のため改修が必要な状況になっています。

江森さんの通う中条中学校の施設につきましては、体育館への連絡通路が危険な状態であったため、平成18年度に床の改修を、今年度には天井の改修工事を行いました。

また、校舎の雨漏りにつきましては、東側校舎階段の雨の浸水に対する防水改修工事を以前に実施しましたが、再び改修が必要となっていることから、早急に対応していきたいと思えます。

現在、市内の他の小・中学校の施設改修等につきましても、危険度、緊急性などを考慮して、限られた財源の中で計画的に進められるよう努力しています。これからも引き続き、みなさんが安全に、そして快適に学校生活をおくれるよう、市内の学校全体を計画的に改修していきたいと思っています。

議席番号27番 妻沼東中学校 蝦名 俊祐 議員

教育支援について（教育長答弁）

次に、蝦名俊祐議員さんの「教育支援」についてお答えします。

蝦名さんが言う新聞報道は、大学入学時に金融機関のあっせんと、その融資の利子を深谷市が一部負担するという内容でした。

熊谷市においては、幼稚園児から大学生まで次のような教育支援の制度があります。

初めに、幼稚園の園児がいる家庭では、「幼稚園就園奨励費補助」の制度等により、所得の基準がありますが、保育料を補助したり、保育料を減額又は免除したりしています。

次に、小・中学校の児童・生徒がいる家庭では、「就学援助」の制度により、やはり所得の基準がありますが、学用品費、給食費、修学旅行費、医療費などを支援しています。

次に、高等学校や大学の生徒・学生がいる家庭では、熊谷市独自の「入学準備金」や「育英資金」の無利子貸付制度により、条件はありますが、入学費用や学校生活に必要な費用を支援しています。

これからも、引き続きこうした教育支援の充実に努めていきたいと考えています。

議席番号29番 妻沼西中学校 岩上 大真 議員

校舎の耐震改修について（教育長答弁）

次に、岩上大真議員さんの「校舎の耐震改修について」にお答えします。

学校の施設については、皆さんが一日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、地震などの災害時には地域の住民の皆さんの避難場所となるな

ど、その安全性の確保は重要なことと思っています。

岩上さんの通う妻沼西中学校は、今年の夏に校舎の耐震補強工事を行いました。こうした工事は、専門家による耐震診断の結果に基づいて補強設計、工事を行っています。

質問の市内の小・中学校の校舎の耐震化の実施状況ですが、今年度末で、小学校が30校中25校、中学校が17校中13校、合計47校中38校となります。

また、体育館の耐震化の状況は、小学校が30校中11校、中学校が17校中12校、合計47校中23校となります。

学校には、こうした校舎、体育館に加え、プールや校庭などの施設があり、耐震補強工事のほかに、これらの整備、改修を含めると、ぼう大な費用が必要となります。

そこで、計画的に校舎、体育館等の整備が図れるよう、引き続き、改築、改修等に取り組んでいきたいと考えています。

○ 質問番号 11 番 教育委員会学校教育課関係（市長答弁）

岡田耶万葉議員さん、三木加奈子議員さん、高橋由佳議員さん、井上純一議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

皆さんからの質問は、学校や熊谷教育の将来のことについて真剣に考えての質問であり、市長として大変心強く感じました。

授業数増加への対応については、熊谷の学校では、すでに二学期制をとっていますので、今学校で取り組んでいる時間で充分確保できると聞いています。

学校選択制の導入については、通学区域に住んでいる地域の方々が、皆さんを地域の宝として大切に見守ってくれています。そして、学校、家庭、地域が一体となって地域子どもたちを育てていくことが大切であると考えています。特に、小学校区連絡会を熊谷のそれぞれの地域づくりに活かして行きたいと考えています。

次に、「熊谷市の教育方針」のうち、夏休みの授業と文化祭についてですが、熊谷市では、教育方針に皆さんの学力の向上を掲げています。その実現のため、教育環境の整備に努めているところです。

たとえば本年度は、全小中学校の図書館に、エアコンを設置しましたので、これも活用してください。

また、学期制の充実については、本市の学校では、皆さんがいっそう勉強にがんばっていただけるようにと、二学期制の良さを生かし、これまでよりさらにきめ細かく評価する機会をつくってくれています。

今後も、これら、皆さんの熱意に答えて、私も、熊谷市の教育を充実させるため、しっかりと取り組んでいきますので、皆さんも、大いに、勉強に、運動に、がんばってください。

議席番号 5 番 大原中学校 岡田 耶万葉 議員

授業数増加への対応について（教育長答弁）

岡田耶万葉議員さんの「授業数増加への対応」についてお答えします。

岡田さんも御存知のように、これから、授業時間数を増やそうとしているのは、学校において「生きる力」の育成をさらに充実させるためです。つまり、基礎的な知識、技能に加えて、これらを活用する力を更に伸ばすためです。

熊谷市の小中学校では、現在、二学期制を実施していることによって、全ての学校が、国が決めている授業時間数を大きく上回っています。これから、授業時間数が一割増えた場合でも、いろいろな工夫を加えることで、十分に対応できるものと考えています。御安心ください。

議席番号10番 玉井中学校 三木 加奈子 議員

学校選択制の導入について（教育長答弁）

次に、三木加奈子議員さんの「学校選択制の導入について」にお答えします。

通学区域は、それぞれの地域の歴史的な背景や地形などによって決められます。また、地域の自治会の意見なども関係して決められています。

こうした通学区の地域の皆さんが、自分たちの地域の子どもたちが、安心して学校に通えるようにと、毎日、皆さんを見守ってくださっています。

学校選択制にすると、学校が選べるという点もあるかと思いますが、一方で、こうした学校と地域とのつながりが薄れていくおそれもあります。学校、家庭、地域が一体となって地域の子どもたちを育てていくことは大切なことですので、現在のところは学校選択制の導入は考えていません。

しかしながら、いろいろな理由で指定された学校ではない学校へ通いたいという場合には、教育委員会へ相談していただければ、それをお聞きして、学校を変更できるかどうか判断しています。

議席番号12番 大麻生中学校 高橋 由佳 議員

熊谷市の教育方針について（教育長答弁）

高橋由佳議員さんの「熊谷市の教育方針」のうち、夏休みの授業と文化祭についてお答えします。

熊谷市では、本年度、学期制の実施にあたり、土日を含め3日間の秋休みを設けました。このため、8月31日を授業日としたわけです。

各学校では、この日を教科等の授業だけでなく、9月に行われる体育祭などの準備に活用しています。また大麻生小学校に、夏休み中の補充学習について、確認したところ、高橋さんが、6年生のときには、全校一斉で行われたようですが、それ以降は、希望者を対象に実施されているということです。

今年度、すべての小・中学校の図書館にエアコンが入りましたので、夏休み中の希望者対象の補充学習につきましても、これからもエアコンを活用して、行っていきます。

次に、大麻生中学校の文化祭がなくなったことについてですが、高橋さんの指摘のとおり、文化祭や体育祭などの学校行事は、普段の学習の成果を発揮するとともに、仲間意識を高めることができるとても大切な活動です。

大麻生中学校に確認したところ、文化祭を実施していた頃は、夏休み中にも多く時間を割いて準備をするなど、生徒の負担が大きかったため、平成17年度からは、行事のもつ意義や効果が損なわれないよう配慮しながら、文化祭と合唱コンクールを一つに合わせ、効率的に実施されているとのこと。

教育委員会としても、これからは学校週5日制のもと、各学校においてそれぞれの実態に応じて、特色ある、しかも効率的な学校行事が行えるよう指導していきます。

議席番号 33 番 江南中学校 井上 純一 議員

学期制の充実について（教育長答弁）

井上純一議員さんの「学期制の充実について」にお答えします。

熊谷市では、すべての小・中学校で二学期制を実施しています。井上さんご指摘のとおり、二学期制は、長期の休みが学期の途中に入るので、皆さんはこの期間を利用し、今までの学習のまとめや補充をすることができます。

また現在、各学校では、前期・後期の2回の評定だけでなく、学期の途中でも小テストや実力テストをはじめとする学習の評価を出しています。そういう意味で、三学期制での年間3回の評定よりも、皆さんのがんばろうという機会をより多くしているのです。

つまり、井上さんのご提案のように、結果として、二学期制と三学期制のよいところを混ぜ合わせていることとなります。

教育委員会及び学校としては、授業時間が増えるというこれからも、すでに授業時間が確保できているなど、二学期制のよさを活かし、皆さんが、さらにがんばるよう、知・徳・体のバランスのとれた確かな学力を身に付けるよう、皆さんを応援していきます。